

「ダイライト」の機能性を生かした 天然素材の表情を湛える不燃壁材



① 大型TVを掛けた背面壁一面を「GRAVIO EDGE Flusso」〈ダークグレー〉で仕上げた例。ピースごとの色合いにバラつきがあるほか、コーニス照明による天井からの柔らかな光が溝による立体感を強調するので、視線が自然と壁面に導かれる



- ② 空間を緩やかに分節する間仕切壁を「GRAVIO EDGE Blocco」〈ライトグレー〉で仕上げた例。グレイッシュなレンガ積み風の壁と黒いサッシが白い内装とほどよいコントラストとなり、空間をスタイリッシュに見せる
- ③ 内と外の一体感を高める方法として、窓に接する内装材と外装材の質感を揃えるという考え方があ。ここでは、外壁の質感に合わせた「GRAVIO EDGE Calse」〈ペーージュ〉を内装材に使用。内と外の領域を曖昧にした
- ④ 見せる収納であれば、背面壁の素材にもこだわりをもちたい。ここでは、「GRAVIO EDGE Curva」〈ネイビーブルー〉をオープンシェルフの背面壁として使用。カラフルでムラのある表情は、収納物を引立てつつ、アクセントとして映える



壁材として進化する「ダイライト」

将来的な住宅着工件数の減少は、住宅向け建材を主力として事業を行う建材メーカーにとっても看過できない問題である。安定した事業収益を確保するには、既存技術の特徴を徹底的に洗い出しながら、新しい市場に打って出る必要があるだろう。

市場の動きとして注目されるのが、木材や天然石などの天然素材に対する需要の高まりである。住宅の壁では、これまで白を基調とするビニルクロスが主流だったが、近年は、大型TVの背面壁や床の間などのアイストップになる壁を天然素材で仕上げるニーズが増えている。ただし、価格は高く、施工にも手間がかかる。一方、印刷・成形といった天然素材を忠実に模倣する技術は格段に進歩。見た目は本物と見

分けが付かないレベルに達している。

2018年6月に発売される「GRAVIO EDGE」(大建工業)は、こうした時流を的確にとらえた不燃壁材である。1997年の発売以来、木造戸建住宅の耐力壁として約80万棟に採用されている「ダイライト」[*]をベースとしている。

「ダイライト」を仕上げ材として見た場合、内装制限や外廻りの防火規制に対応できる不燃性能に加えて、成形性や加工性がよいという強みがあります。表面にさまざまな形を表現できるのです。従来は、塗装技術がネックとなっていた「ダイライト」を仕上げ材として実用化できなかったのですが、特殊多彩塗装技術の開発に成功した結果、「GRAVIO EDGE」の製品化を実現しました(大建工業エコ事業部DIL開発課課長川邊伸夫氏)。

施工性の高さは天然素材を凌駕

「GRAVIO EDGE」の大きな特徴は、独自プレス成型技術による深彫り加工によって、天然素材と見間違えるようなテクスチャ豊富な表面に仕上がっていること。「ピース」の境目に刻み込まれる溝の角度は一般的な仕上げ材の60°に対して75°と垂直に近く、ビニルクロスには表現できない趣のある表情を湛えます。その表現力の高さは、思わず手で触ってみたくなるほど。自然光や照明光が当たると、陰影が強調されるので、視線が自然と壁面に誘導されます(川邊氏)。

施工性の高さも大きな強み。タイルや天然石は比重が1を超えるものが多く、加工や取り付け、目地の処理などに手間がかかる。一方「GRAVIO EDGE」の比重は0.8と軽いほか、手鋸で簡単に切断できる。サイズも455×1千820mmの大判で、石膏ボードなどに張り付けるだけ。目地処理は必要ない。相決

り加工されたボードをつなぎ合わせるのと、それぞれがシームレスにつながるので、壁一面を美しく表現できる。

「GRAVIO EDGE」には、4種類のデザインバリエーションがある。細長いピースで構成される「Flusso」は、表面がやや傾斜しており、美しい陰影の水平ラインを壁面に描く①。砂岩をモチーフとした「Blocco」は、各ピースの凹凸がエイジングを感じさせるレンガ積み風の壁を想像させる②。流れ石をモチーフにした「Calse」は、リゾートにいるかのような雰囲気を出し出す大谷石のイメージ③。「Curva」が表現するのは、糸を折り込んだ布地。ピースの1つ1つが湾曲しており、柔らかな雰囲気を醸し出す④。

「発売前ですが、女性の意見を取り入れて開発した「Curva」の人氣が想定よりも高いという感触を得ています。今後は、発売後の反響を見ながら、「GRAVIO EDGE」に続く製品の開発にも邁進していく所存です(川邊氏)。

ピカイチ！ポイント

- ◎ レンガ調・大谷石・織物の表情を忠実に再現
- ◎ 自然光や照明光で壁面に陰影を表現できる
- ◎ 455×1千820mmの大判サイズで施工性がよい



GUEST
大建工業
エコ事業部 DIL開発課 課長
川邊伸夫氏

* 「ダイライト」は中間層が火山性ガラス質材料(シラス発泡体)、表層がロックウールという構成。軽量性を出すためのシラス発泡体を強度の高いロックウールで保護している。「GRAVIO EDGE」の総厚は9mm

人物写真=加藤元樹
取材・文=編集部